

【R7年度版】

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

校 訓	自 学	めざす 生徒像	目的をもって自ら学ぶ生徒
	礼 節		礼節をわきまえ <u>他を思いやる</u> 生徒
	先 施		先施の心で <u>実践できる</u> 生徒

(2) 経営方針

教育方針 「自ら学び、考え、行動する生徒の育成」
中学校3年間を通して生徒自らが行う進路設計

全校生徒、教職員一人一人が一丸となり、「先施の心日本一」の学校をめざした教育活動を全力で推進する。「先施の心」を校訓の柱とし、本校の教育方針である「自ら学び、考え、行動する生徒の育成」を推し進め、「生徒自らが行う進路設計」を全教職員で支援する。

(3) 本年度の重点努力目標

ア 「先施の心」育てから活気にあふれる学校づくりを推進する。

- ①校訓「礼節」を基本にした気持ちのよい挨拶と規律ある授業を実践する。
- ②生徒会活動等を核にリーダーの育成とともに活気にあふれる学校づくりを行う。
 - ・自治活動の中で学校生活や校則を見直し、自己肯定感や愛校心を育成する。
 - ・縦割り活動を柱に、学校・学年行事等を通して系統的なリーダー育成を図り、リーダー・フォロアーとして学び合ういじめのない学校づくりを進める。
- ③積極的な体験活動の推進を通して、自らを高め、「先施の心」を体感させる。
 - ・ボランティア活動の推進を図る。（校内外・地域・社会福祉活動等）

イ 「生きる力」を育み、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図る。

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善を実践する。
 - ・ICT機器の利用を促進し、学びを深める。
- ②生徒が自学のできる学習環境づくりの充実を図る。（家庭学習の充実）
- ③ユニバーサルデザインや合理的配慮の視点を組み入れ、生徒がわかる・できる喜びを感じる学習の場の充実を図る。（授業のねらい、教室環境、困り感への声掛け）

ウ 「生徒自らが行う進路設計」を支援する発達段階に応じた個の指導の充実を図る。

- ①生徒一人一人が自信をもって進路設計ができるよう、生徒の成長段階に合わせ、計画的・系統的にキャリア教育の推進をする。
 - ・進路学習、相談活動、情報提供等、地域との連携・協力を拡充する。
- ②生徒一人一人に、どのような資質・能力の育成を図るかを考え、心に寄り添う生徒指導を行い、生徒が安心できる環境を整える。
- ③発達段階に応じた資質・能力を育成する視点に立ち、特別支援教育を核に据えた個への指導の推進を図る。

エ 率先垂範・師弟同行の精神を携えた「チーム平洲」としての連携を推進する。

- ①職員間や小中間の組織的連携を重視するとともに、生徒、保護者、地域や関係諸機関担当者等、他を慮る丁寧な言葉遣いと誠意のある行動に努める。
- ②事故や事件、風水害・火災等が発生した際に、初動の重要性を意識し、迅速かつ組織的に行動できるよう教職員一人一人が危機管理意識とスキルを携える。
- ③ハンディキャップや性的マイノリティ等を抱えた生徒の心に寄り添うとともに、職員間で情報を共有しながら、人権に配慮した指導体制を築く。
- ④学校ホームページや学校だよりを活用して、教育活動の様子やその成果を継続的に情報発信し、家庭や地域との信頼関係や協働体制を築く。
- ⑤質の高い働き方を意識するとともに、お互いに支え合いながら、心身ともに健康な状態で教育活動に取り組むことのできる職員集団をめざす。